

YELL

メール
第26号

那須教育事務所ふれあい学習課
〒324-0056 栃木県大田原市中央 1-9-9
Tel:0287(23)2177 FAX:0287(23)2193
Mail:nasu-kyouiku@pref.tochigi.lg.jp

Vol. 26 平成25年11月

学校が地域の力になる！

那須山に初雪が降り、日に日に寒さが増しています。秋を楽しむ間もなく、あっという間に冬がやってきてしまいました。体調等崩されていませんか。

さて、前号までは地域の力を借りて、学校行事や授業を充実させることについて考えてきました。しかし、今号では、学校が地域に協力する、「学校が地域の力になる」という点について考えていきたいと思えます。

まず、学校が地域と連携を深めるためには、「生涯学習係や社会教育主事有資格者が地域に足を運ぶ」ということです。例えば、公民館に行って職員と顔見知りになる、自治会長さんと話をして地域の情報を得るなどが挙げられます。訪問するのに初めは抵抗があるかもしれませんが、11～12月は公民館まつりなど、生涯学習に関する行事がたくさんありますので、それを利用して訪れてみるといいかもしれません。

その訪問を通して得た情報（公民館や地域の行事、小学生を対象とした講座の募集等）を学校職員に知らせるとよいでしょう。そこから、職員の視野が地域に向かって広がり、スポーツ少年団との行事調整をしたり、学年だよりや学校だよりにより地域の行事等を載せたりすることにより各家庭へ学校からも情報を伝えることができます。教室で「明日公民館まつりがあるので、行ってみるといいよ。」と声をかけるだけで、児童が「明日、

公民館まつりに行きたい。」と保護者にせがむかもしれません。これらが、すべて地域の力になるのです。

次に、地域から得た情報の中で、地域が困っていることを、学校や学校の職員で補えることはないか探してみましよう。

例えば、公民館で家庭教育に関する講座を主催してもなかなか人が集まらないという現状があります。そこで、学校という場所を提供するのはどうでしょうか。授業参観や学校行事と併せて講座を実施すれば、参加者を増やすことができるかもしれません。また、家庭教育についての話を保護者に聞いてもらうことにより、家庭教育力を向上させることにもつながります。

それから、公民館の講座で講師が見つからないというときには、教職員の専門性（【例】パソコン、絵画、ものづくり、面白理科実験等）を生かして講師になってみるというのはいかがでしょうか。地域との信頼関係を深めることもできるのではないのでしょうか。

学校が地域の力になるという視点で、様々な例を挙げさせていただきました。学校と地域がお互い「WIN WIN（双方がうまくいっていること）の関係」が築けるといいですね。ぜひ、各学校で地域の力になるという視点で、地域を見つめ直してみてください。

社会教育主事有資格者ステップアップ研修

那須地区社会教育主事有資格者ステップアップ研修を下記の内容で行います。今年度も、地域教育コーディネーター養成研修を兼ねており、講話や演習を通して、地域と学校の連携について考えます。

日時：平成25年11月29日（金）14:00～

場所：西那須野公民館

講話及び演習：「学校と地域（公民館）が協働しやすい関係を更に進めるために」

講師：茨城大学 准教授 長谷川 幸介 氏

